

□議員名：会派新政会 松尾数則

## 1 施政方針について

論点	今年度の施策において何を浸透していくのか、大きく成長させたいものは何か。
回答	令和2年度は、協創の考え方を共有し、地域全体を巻き込み、つながる仕組みや体制をつくり、協創指針を策定したい。大きく成長させたいものにスマイルエイジングの取組み、今後さらに研究検討を行い、市民の健康寿命の延伸に向けて効果的な施策展開を考えたい。また、施設の維持管理や更新費用の増大といった課題に対応するため、協創のチャレンジとして傾注していく分野としてLABVを活用した商工センターの再整備やきらら交流館の民間事業者活用導入可能性調査を行いたい。 そのほか、山口東京理科大学と連携した産学官連携推進協議会の取組みも成長・深化させていきたい。

論点	今年度、どのような内容の新たな種をまくのか。
回答	新たに種をまくものとして、RPAやAI-OCRを導入することでスタートを切るスマート自治体やスマートシティへの取組み、また、ガラスのブランド化推進などの産業創出に取り組みたい。市民によりよい行政サービスを提供し、基礎的自治体としての責務を果たす取組みにチャレンジしたい。

## 2 トップリーダーの経営感覚と統率力

論点	新時代の市長に必要な経営感覚と強い統率力を、これからのまちづくりの基本姿勢である協創にどのように生かすのか。
回答	リーダーとして大切にしている考え方の一つは、いいチームをつくること。トップの強いリーダーシップのもと、いいチームをつくり、組織内で思いを共有し、解決しなければならない多くの問題や課題の解決に向け、知恵を出し合いながら取り組んでいく姿勢は民間経営の感覚を行政にも活かしたい。市の長としてのリーダーシップとは、まずゴールを明確に示すこと、そしてその実現に向けて目的や意識を共有すること、さらにゴールまでしっかりと導くことが、大切な3つの要素だと考えてい

	<p>る。来年度から取組む協創指針は、まさにこの考え方に基づくものである。10年先、20年先の山陽小野田市の持続性を担保するという明確なゴールに向け、協創のまちづくりをさらに深化させる必要がある。その実現に向けて目的や意識を共有するために協創の理念、考え方、仕組みを市民と共有し、同じスタートラインに立つ必要がある。そして、市民や地域団体を初めとした各種団体、学校、大学、企業関係者の力添えをもとに山陽小野田市の持続性を担保するというゴールに向けて協創のまちづくりを深化させる取組みを市の長として導きたい。協創指針の具体的な内容はこれからの検討になりますが、現時点では、協創の考え方、まちづくり・地域づくりの考え方を市民と共有すること、そして地域全体を巻き込み、つながる仕組みや体制づくりといった項目を想定している。策定に際しましては、市民の皆様方と意見交換をしながらまさしく協創でつくり上げていきたいと考えている。</p>
--	--

### 3 スマイルエイジングの取組みについて

論点	スマイルエイジングの取組みについて、例えば認知症等の問題も含めた心の健康について、健康寿命の増進を図ることの考えは。
回答	スマイルエイジングの取組みは4つの分野を柱として展開したい。知守、それから食事、運動、交流という4分野に仕分けして進める。心の健康に係るところで言うと、まず知守という分野においては、例示で言えば自殺対策であるとか、ひきこもり対策であるという自分のことを自分で知って守るという分野も取り組む予定にしている。交流の分野における皆様の社会参加、人のつながりに向けた取組みについても、孤独感の解消であるとか、人づくり、地域づくりを通じ心の分野を賄いたいというふうに思う。

### 4 スマート自治体で目指すものは何か

論点	スマート自治体として、今後、何をを目指すのか
回答	今後、人口減少による税収の減少や高齢化の進行による社会保障費の増加など、財政状況が厳しい中、将来にわたって市民サービスを提供し続けるためにSociety 5.0において加速化する技術革新を活用す

	<p>ることで職員の業務負担の軽減を行い、住民や企業等への利便性の向上につなげたい。本市では-来年度、ソフトウェアによりパソコン操作を自動化するRPAや人工知能を活用して光学文字認識を行うAI-OCRの導入に着手することとし、関連予算を計上している。現時点では、税務課、学校給食センターにおける口座情報の登録業務等への導入を検討している。定型業務の自動化・省力化による事務処理の効率化や職員の作業時間の削減、ヒューマンエラーの防止等の観点で効果検証を並行して行う。</p>
--	--